



# mIRaI 通信

～輝く「未来」の中に「伊里」はある～



## やっぱり校歌はいいですね in 邑久高卒業式



3月1日は県立高校の卒業式でした。ここ2年は備前緑陽高校の卒業式に出席していましたが、今年には邑久高校の卒業式に出席です。

正直、年度末を控えて超多忙な時期であり、することは天神山くらいはありますので時間をとられるのは痛いなぁとの思いでの参加でした。



しかし、終わって見ると現金なもので、気持ちは高校時代に戻り、若々しくさわやかな気分で中学校に帰ってきたのでした。

それというのも、実は邑久高校は我が母校です。この体育館で私も卒業しました。ちなみに3年A組出席番号1番でした。当時は生徒が355人いましたので、呼名は「秋山和規、ほか354名」でした(笑)。口の悪いヤツは、「秋山和規アホか」じゃ、と負け惜しみを言っていました。まあどうでもいい話ですね(苦笑)。

本題は校歌です。式自体も落ち着いた中にも温かさが感じられ、とても良い式でした。そして式の最後は校歌、ですね。私、未だに高校の校歌も歌えるんです。

隣に座っていた、瀬戸内市の某中学校の校長先生は高校の先輩です。校歌が始まると、来賓席で2人して校歌を熱唱していました。打ち合わせしていたわけではありません。お互いが自然と歌ったのでした。一瞬で、あの頃に帰り、何とも言えない不思議なホンワカした気持ちになりました。

校歌とはこういうものですね。いつも言っていますが、「同じ時に、同じ場所で、感動・苦労を共有したものだけが歌える歌」「時を超えて、場所を超えて、つながりを持てる歌」…それが校歌です。

3年生にとっては「同じ場所」で歌える最後の校歌となりますね。校歌が、時を超えて場所を超えてつながりをもつ歌であるためには、この時にどれだけ歌えるかがとても大事だと思います。もちろん在校生にとっても。



卒業式、最高の校歌を聴かせてくださいね。



# 善行

## ライオンズクラブから表彰される



1日の午後、備前ライオンズクラブの方が2名来校され、校長室で「善行賞」「奨励賞」の表彰が行われました。

「善行賞」は、3年生の正部くんと田中くん。正部くんは、熊本地震への義援金を10万円集めたことが評価され生徒会の代表として、田中くんは、校内や地域でのボランティア活動が評価されての表彰でした。

「奨励賞」は、生徒会の執行部。様々な取組を進めている生徒会なので、来年度に向けて更なる飛躍を期待しての受賞です。

やや緊張しながらも、堂々たる態度で表彰を受けられました。



## PTA も次年度に向けて



来年度の各地区のPTA評議員さんが全て決定いたしました。選出にあたってくださった現評議員さんには大変お世話になりました、ありがとうございます。いつもながらのスムーズな選出に、伊里地区の底力を感じております。新しい評議員の皆様には来年度よろしく願いいたします。

そして1日夜には幹部会を行い、来年度の執行部の準備に入りました。いわゆる「組閣」というやつですね(笑)。

今年度もPTA活動に多大なご協力をありがとうございました。各種研修等にも、備前市で最も多くの参加をしていただきました。市P連の会長校、事務局校として責任の大きい今年度でしたが、おかげさまで無事大役を終えることができそうです。ありがとうございました。



## 3年生中学校生活を楽しむ



校内を見回り中、脚を体育館に向けると、かなり前から歓声が聞こえてきます。「盛り上がってるなあ」と中を覗くと、3年生ABの体育でした。

受検のストレス発散という意味合いもあるのかもしれませんが、共に過ごしてきた仲間たちと、残り少なくなった中学校生活を楽しもう!という気持ちが伝わってくるようで、微笑ましく見えていました。気心の知れた仲間たちとのふれあいて本当によいものですね。この関係をいつまでも続けるんだぞ、と心の中で

願った秋山でした。この願いが叶うことを願います(笑)。でも盛り上がりすぎてケガだけはしないでね、とも思った心配性の秋山なのでもありました。

残り少なくなった日々。以前紹介した歌の、「退屈だと叫んでいた何でもない毎日が、今では宝物です♪」という歌詞が、今は実感としてわかるのではないのでしょうか。

「宝物の日々」、大切に過ごして、一生ものの「宝物」にしてください。

